

普及だより

令和2年1月 Vol.

108

# くにみ

発行：伊万里農林事務所  
西松浦農業改良普及センター  
TEL(0955)23-5128 FAX(0955)23-5138  
nishimatsuurafukyu@pref.saga.lg.jp

## NEWS TOPICS



# 伊万里・有田の 農業に新しい風を

令和元年度新規就農者激励会を開催

伊万里・西松浦地区では、今年度18名が新たに就農し、キュウリやイチゴ、ナシ、ブローライナーなどで、新たな農業の担い手として頑張っておられます。

地区青年農業者育成対策協議会では、10月4日に「新規就農者激励会」を開催しました。出席した7名の新規就農者からは、「牛舎1棟任せてもらえるように頑張りたい」等の抱負が述べられました。農業士の前田尚充氏は、「近くに農業の先輩はたくさんいる。ぜひ頼って、『農業で生き残っていく』という強い意志で自信をもって農業をしてほしい」と激励されました。

先進事例紹介では、大分県の(株)ドリームファーマーズ宮田宗武氏と安部元昭氏を招き、「好奇心が経営力へ仲間とともに地域の未来をつくる」と題し、自らの経営や、4Hクラブ仲間との会社設立の経緯、目指すべき農業の在り方等、講演していただきました。

新規就農者のみなさんは、今まさにスタートラインに立たれ、農業経営に奮闘されています。関係機関一丸となり、新規就農者の支援を行っていきます。



## 地域農業を牽引される農業者の方たち

# 「佐賀農業賞」受賞



〈先進的農業経営者の部〉

優秀賞

伊万里市大川町

田口敬一郎氏・吉子氏

昭和53年に就農後、輸入乾燥飼料を使用しない自給飼料による肉用牛生産、肥育全期間でのWCS活用をされています。

また、堆肥は所有する粗飼料の栽培圃場だけで処理、自己資本比率を高め情勢の変化に備えるなど、中規模肥育牛農家の1つの理想的な形として夫婦で経営を発展されてきました。また、素牛対策として繁殖部門に参入するなど更なる改善にも取り組まれ、これからの発展が期待されます。



〈若い農業経営者の部〉

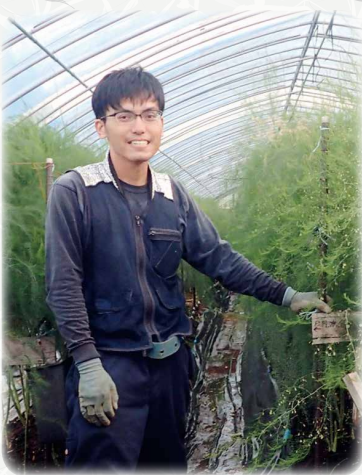
優秀賞

有田町

庄山和孝氏

平成19年に就農され、ヤギ放牧による除草作業の省力化、化学農薬に頼らない病害虫防除、整枝屑や作物残渣を活用した土づくりなど、「自然環境と調和した農業」を信条に、施設アスパラガス+露地野菜の複合経営を展開されています。

特に、施設アスパラガスではJA部会活動を基本とした技術研鑽や仲間づくりに積極的に取り組まれる一方、暑さ対策として収穫台車へのファン設置や、作業機械や器具を自分で使いやすいよう、また経費を抑えて改造・自作して作業の改善を図るなど、創意工夫あふれる若手農家です。今後、ますます地域で活躍されることが期待されます。



〈地域農業活性化の部 女性活躍部門〉

優秀賞

伊万里市波多津町

市丸千代子氏

昭和56年から肥育牛経営を開始し、男性中心の肥育牛部会員の中で女性経営者として自ら肥育素牛を導入し、かつ女性ならではの観察眼とこまめな飼養管理で高位で安定した経営をされています。また、日ごろから農業を楽しみながら経営されています。

現在は、夫が会社を退職後、就農されたのを機に220頭まで規模拡大を進められ、又、後継者夫婦と家族経営協定を締結し、話し合いながら肥育牛経営を行われています。

労働力に見合った飼養頭数規模、飼養管理および個体観察の徹底による品質の高い肥育牛経営を実践し、子牛や枝肉市況等の情勢変化に的確に対応し、安定した経営に取り組まれています。また、女性経営者のモデルとして、女性の能力発揮や地位向上に大きな役割を果たされています。



# 県内初!! JGAP・佐賀県 GAP 団体認証取得

GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、経営管理改善を継続的に実践するための取り組みのことです。近年、GAP 認証が東京オリンピック・パラリンピック競技大会の食材調達基準になったことなどを契機に、農業現場において非常に注目を集めています。

GAP 認証には様々な種類があり、日本では主に表1に記載している4種類のGAPの取得にむけた取り組みが進んでいます。

当普及センター管内では、2つの法人と2つの団体がJGAPまたは県GAPの認証を取得されています(令和元年12月末現在)。

表1

	策定した地域	国際水準
GLOBALG.A.P.	ドイツ	○
ASIAGAP	日本	○
JGAP	日本	×
県GAP	各都道府県	×

## 【管内取組事例紹介】

- ①「JA伊万里米GAP部会」は、農協青年部(二里、波多津)を農場と位置づけ、平成29年度からJGAP認証取得に向けた活動を開始し、令和元年9月にJGAP認証(JGAP2016穀物)を取得されました。現在は国産長粒米「ホシユタカ」を推進品目とし、東京オリパラへの食材提供に向け取り組まれています。
- ②「JA伊万里梨部会」は、JA伊万里梨部会(144戸)で令和元年12月に佐賀県GAP認証を取得されました。GAPを取得したことで、農薬の適正使用や肥料農薬の在庫管理を見直すきっかけとなり、今後の経営管理改善につながる事が期待されます。

GAPに興味のある方は、気軽に普及センターへご相談ください。




「伊万里梨発祥立川の梨園を守る会」では、農地維持と担い手確保の両面から将来のための生産基盤強化に取り組まれています。

特に担い手の確保では、今年度から梨栽培に興味がある方を外部から受け入れる研修体制を検討され、研修生募集パンフレットを作成し、就農フェアや各種メディアなどを活用して情報を発信しています。

現在、興味のある就農希望者を立川に招き、マッチングを行っています。また、守る会と関係機関が連携して他県の先進事例を学びながら、就農へのサポートのため取り組んでいます。

## Let's 梨栽培

### in 立川

## 研修生募集中!





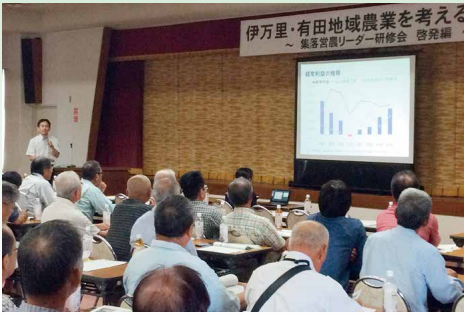
# 地域を見なおす 未来のむらづくり

～伊万里・有田地域

農業を考える研修会開催～

今年度も昨年に引き続き、「伊万里・有田地域農業を考える研修会～集落営農リーダー研修 法人編～」を開催しました。山口県の集落営農法人である「農事組合法人HN紫福（エイチエヌシブキ）」から講師を招き、法人設立までの経緯、法人経営、法人の将来等について熱い思いを持って伝えていただきました。会場からは「法人化した場合、赤字になると心配だがどうなのか?」、「若い世代が参加するメリットは?」といった質問があり、集落営農法人への関心の高さがうかがえました。

来年以降も、研修会を開催し、集落営農の取り組みを進めていくこととしています。



山口県の集落営農法人「(農)HN紫福」の事例発表



(農)HN紫福との質疑応答

# 次世代の農業者を絆ぐ

～4Hクラブ東西松浦

三地区交流会開催～

4Hクラブとは、将来の日本農業を支える20～30代前半の若い農業者が中心となって組織され、4CのH(Hands・Head・Heart・Team)の信条を掲げ、活動している組織です。その4Hクラブの東西松浦三地区交流会を伊万里で開催しました。



20名以上の若手農業者が集まり、

スポーツ交流や情報交換会の中で、若手農業者のネットワークの構築、意見交換が活発に行われました。担い手不足が叫ばれている状況ですが、今後も活発なクラブ活動を実施し、若手農業者の仲間づくりや共に発展できる組織を目指します。



令和元年度 東西松浦三地区交流会



佐藤 哲也 氏 (有田町)

夫婦でキュウリ栽培を始めて5年になります。近年は収量が増えてきていますが、キュウリ栽培は、収穫が始まると休みが取れないことが悩みのタネです。「働き方は生き方そのもの」とは、尊敬する経営者の言葉。今ふたたび、農的暮らしを実践しながら好きなことを追求する生き方「半農半X」が注目されつつあります。

わが家では冬場の雨よけハウスの活用法や労力分散のために「半Q(キュウリ)半X」のXを模索中です。でも将来、Xの収入を大きくできれば、半「休」半「Q+X」という夢のような日々が送れるかも。そんな働き方は幸せの青い鳥を探すような旅かもしれません。わたしの理想とする生き方です。

